

歴史探訪 Historia ヒストリア

玉 TAMA —悠久のきらめき—

企画展「玉-悠久のきらめき-」

開催中～1/11(日)

¥0
FREE

四国中央市歴史考古博物館

・高原ミュージアム・

県内で出土した玉類を1000点以上展示。
来館者にはオリジナルポストカードをプレ
ゼント！更にメルマガに登録した方には、
オリジナルクリアファイルを進呈します。

学芸員による展示解説

12/20(土) 10:00～(60分程度)

問 歴史考古博物館 - 高原ミュージアム -

☎ 28-6260 📍 川之江町 2217-83

写真 四ツ手山古墳出土玉類。水晶
製の勾玉や切子玉、更にメノウ製
丸玉などが含まれる。水晶が主体
の構成は希少（市教育委員会所蔵）

「玉」
古の人々を魅了したアクセサリー
人々は、玉に身を飾る美しさだけ
でなく、魂や霊に通じる神秘性も見
いだしてきました。その歴史をひも
解くと、当時の社会や人々の価値観
が浮かび上がってきます。

玉—その素材と種類

玉は、ガラスや石材、金属、粘土
などで作られました。その形状はさ
まざままで、勾玉、管玉、算盤玉、丸
玉、棗玉、白玉、切子玉、平玉など
が挙げられます。玉には孔があけら

れ、人々はその孔にひもを通して身
につけていました。

縄文・弥生—「碧」の時代

玉づくりは、石や貝や動物の骨、
粘土など身近な素材を用いて始まっ
たとされています。縄文時代にはヒ
スイなどの緑色の石材を使用した玉
が流通し、弥生時代になると朝鮮半
島の影響を受けて、形や大きさのそ
ろつた円筒状の管玉が広がり、素材
には、「碧玉」や「緑色凝灰岩」と
呼ばれる緑色の石材が用いらしまし
た。また、「ガラス小玉」と呼ばれ
る青く小さなガラス製の玉も、海を
渡って伝わりました。

古墳時代

—色鮮やかに隆盛を極める

古墳の築造や埋葬に伴う儀礼に、
膨大な富や権力が注がれた古墳時
代。玉は副葬品として用いられ、更
に多様化しました。

古墳時代の前期には、赤色のメノ
ウや透明な水晶の勾玉が現れ、中期
になると、金や銀の金属製の玉や黄・
赤・緑色のガラス製の玉が使われる
ようになります。更に、琥珀などを
用いた玉も加わりました。

色彩豊かな玉が人々を魅了した古
墳時代は、まさに「玉の全盛期」と
言えます。

玉文化の終焉—きらめきは今も

飛鳥時代に入ると、古墳の減少に
伴い、玉類も急激に減少していきま
す。権威の象徴であり、アクセサリー
として人々の身を飾った玉は、次第
にその役割を終えていったのです。

縄文時代から古墳時代に掛けて続
いた玉の文化は、時代ごとの社会の
変化や精神性を映し出してきました。
さまざまな形や素材のバリエー
ション、そして多様な色彩で人々を
魅了した玉。そこに宿るきらめきは、
古の歴史を物語っています。

現在、歴史考古博物館で開催中の
企画展「玉—悠久のきらめき—」では、
千点もの玉類を展示しています。悠
久の時を越えて玉たちが放つきらめ
きの中に、歴史と文化を見つみま
せんか。



写真 企画展で展示中の玉類（県歴史文化博物館
及び松山市教育委員会所蔵）